

普及活動の成果

様式6(左)

課題名 : 省力化による露地野菜産地の拡大
活動対象 : JAながさき西海ブロッコリー連絡協議会、各支部

振興局名 : 県北振興局
実施期間 :
平成29年4月～平成30年3月

【対象の概要】

- ・JAながさき西海管内のブロッコリー生産者 138名(うち認定農業者50名)
- ・構成地区および部会は以下のとおり(栽培面積順)

地区	部会名	部会員数	栽培面積(a)	面積割合(%)
連絡協議会(合計)		138	59.4	99.66
松浦	松浦蔬菜園芸部会 ブロッコリー専門部会	44	30.5	51.2
小値賀	小値賀園芸部会	25	10.4	17.4
北松	北松 ブロッコリー部会	17	6.6	11.1
させぼ北部	北部 ブロッコリー部会	22	5.4	9.1
平戸	生月平戸 ブロッコリー部会	21	4.2	7.0
南部	南部 ブロッコリー研究会	9	2.3	3.9

【課題設定の背景】

- ・個選であるため、産地で青果物の品質の統一ができていない。
- ・移植・収穫作業だけでなく出荷・調整にも労力がかかっている。
- ・葉たばこ廃作からの品目転換で1ha以上作付けする農家も出てきているが、平均は0.3haと1戸当たりの栽培面積は少ない。
- ・水田では排水不良による湿害等で単収が低い。

【活動目標】

- ・成果目標 : 栽培面積62ha(現況54ha、H32目標70ha)
- ・活動目標 :
共同選果体制の検討、排水対策指導、作付推進および新規栽培者等への栽培技術指導

【関係機関との連携(活動体制・役割分担)】

関係機関が産地の現状と課題・対策について情報共有による共通認識を持った上で、それぞれの役割(下記)を連携しながら全うし、課題解決を行う。

JA : 組織(部会)活動(講習会、作付け推進など)の企画・運営を行う。また、生産者や部会に対して生産指導および集出荷を行う。

振興局 : 県内の産業振興および地域活性化のため、長期視点に立って産地の現状を分析し、課題解決のための活動の提案・指導を直接生産者や関係機関に対して行う。
また、補助事業の推進や県の予算で実施する展示圃の設置を行う。

市町 : 市内の産業振興および地域活性化のため、産地育成のため現状把握および課題解決のための対策(事業化等)を行う。

【活動経過】

(1) 共同選果体制の検討

- 共同選果の実施に関するアンケート結果を取りまとめ、連絡協議会において役員に報告した。連絡協議会では部会再編と統合についての協議がなされた。
- 松浦地区において9/15に共同選果説明会が実施され、11/27～6戸で試験的に共選が実施されている状況を現地で確認した。選果時は部会長が立会い、作業員が判断に迷った場合、すぐに対応できるようにしていた。

(2) 排水対策

- 平戸地区において、水田裏作での排水対策として、額縁明渠、圃場内明渠、高畦等の複数の対策を組合せた展示圃を設置し、月1回の生育調査を行った。
- ブロッコリー、たまねぎ栽培者を対象に、排水対策（明渠、高畝）機械実演会および水田における土作り研修会を実施した。

(3) 作付推進

- ブロッコリーやたまねぎ等の露地園芸振興方策を検討するための担当者会を開催し、推進対象や方法を検討した。その後、各営農センターごとに推進地域や推進品目の選定を行った。
- 松浦地区の集落営農組織「長溪の風御厨木場」でブロッコリーの作付けが予定されていたが、害虫の発生等で苗作りがうまくいかず、1.2haの作付けとなった。
- 各地区において、新規作付者を含めた農家を対象に栽培講習会を行った。

【普及活動の成果】

(1) 共同選果体制の検討

- アンケート調査結果：51戸回答（配布60戸）。
規模拡大希望者17戸、共同選果おおむね賛成27戸（53%）
うち、経費次第16戸、場所次第9戸
- 松浦地区において共同選果の試験運用が開始され、経過は順調（受益者6戸）。生産者から実施の要望の声が多く、試験運用結果から経費・共同選果時期・対象面積等を検討し、来年度以降に本格稼働予定である。

(2) 排水対策

- 展示圃の生育は低温により遅れている。2月に結果をとりまとめる予定。
- 見学した生産者から価格がよければ移植機を導入したいとの意見があった。

(3) 作付推進

- 平成29年産 秋冬作付面積：54.4ha
- 佐世保北部、佐世保南部、松浦で推進品目としてブロッコリーが検討された。結果、小値賀町と松浦市御厨地区でブロッコリーを推進することとなった。
- 松浦地区の集落営農組織（御厨木場）で1.2ha作付された。
- 新規栽培者 佐世保地区（北中部会）1戸（10a）、平戸・田平地区：4戸（87a）

【対象の声】

- 講習会、現地検討会のみならず、足繁く通って指導・助言されることで組合員の技術も向上し、売上げアップに繋がると思います（北中ブロッコリー部会員）。
- 講習会で基本的な栽培管理や防除の情報提供があり、実際の管理に役立っている。ただし、生産者によって管理の徹底具合に差があるため、適正栽培管理の意識を高める工夫が必要だと感じている（松浦部会）。

【今後の課題】

(1) 共同選果体制の検討

- 共同選果については、現在部会の再編・統合の検討段階であり、また総合集出荷施設の建設が構想段階であるため、まだ具体的な検討が難しいが、他地区の共同選果についての情報提供等の支援を行う。
- 松浦では試験運用後に平成30年産の本格実施に向けて経費や共選時期等の検討や情報提供等の支援を行う。本年産は同じ施設でアスパラガス春芽出荷が増えるまで実施予定（2～3月頃）。

(2) 排水対策

- 展示圃の結果をまとめ、生産者に紹介する。

(3) 作付推進

- JAの各営農経済センター単位でブロックリーを含めた露地園芸の推進地域、対象の選定を行った。来年度は年間計画に基づいて活動を行い、関係機関や地域リーダーとの連携を図っていく。
- 小値賀町での作付け拡大について、輸送面での単年度での課題解決は困難であるが、育苗については担い手公社ハウスの活用の可能性が考えられるので、JA小値賀支店担当者と連携して課題解決を行う。（本年度一部育苗を行ったが、常駐できる管理者がいないためJA担当者の負担が大きくなった）

【成果の活用及び普及活動上の留意点】

【発表・参考資料】